

# 白神トピックス

## 白神ねぎらーめんコンテストを初開催 販売課・営農企画課

「白神ねぎ」の知名度向上や消費拡大を目的に、7月28日に能代市と八峰町の4店舗で白神ねぎらーめんコンテストが開かれました。

能代市の「麺家麺四郎」、「宝介新能代店」、「麺職人暖家」、「鹿の浦食堂サザエさん」が参加し、コンテストに向けて新メニューを作りました。コンテストは当日の午前11時～午後2時まで行われ、組合長や市、町などの担当者が見た目や味などの審査と一般客に提供した食数で結果を決め、最優秀賞には「鹿の浦食堂サザエさん」が選ばれました。サザエさん、麺四郎、宝介の3店舗はこの後も継続販売をしていますのでぜひ、足を運んで食べてみてください。



▲見た目や味をチェックする審査員



▲担当者の話を真剣に聞く生産者

## あぜ道巡回で生育状況を確認 営農企画課

営農企画課

J Aでは7月17日から4日間に亘って、管内の各圃場であぜ道巡回指導を行いました。稲作りに最も大事な穂肥期を迎えるにあたり、営農指導員が現在の稲作の状況と今後の管理について生産者に説明しました。

このうち、能代市山谷地区では生産者約15人が参加。営農指導員が今年の生育状況について生育量が小さく、葉色は濃いことに触れ「今後出穂期を迎えるが、高温の影響を受けないようしっかりとした水管理をし、稲の活力維持に努めてもらいたい。また、いもち病が発生しやすい環境なので併せて防除の徹底もお願いしたい」と生産者に呼び掛けました。

## 出荷規格の確認と防除の徹底を呼び掛ける 園芸部会

園芸部会（畑山悦雄部会長）は7月6日、トマトの収穫を前に営農部会議室にて目揃会を開催し、生育状況や出荷規格について確認しました。

目揃会には生産者やJ A、山本地域振興局普及課、市場関係者など約15人が参加。はじめにトマト部門代表の石川博孝さんが「これから出荷が本格化してくる。高品質のトマトを出荷し、目標達成に向けて頑張っていこう」とあいさつ。また、(株)能代青果地方卸売市場の西方課長補佐からは「生産者全員が足並みを揃えて、同じ品質のトマトを出荷してもらえると市場も売りやすい。自分の名前が見られているということを意識してもらいたい」と話しました。



▲出荷規格の確認などが行われました



▲規格を確認する生産者

## 高品質で安定した出荷に向けて ねぎ部会

ねぎ部会

ねぎ部会（大塚和浩部会長）は7月19日、夏ねぎ目揃会を開き、生産者・J A・市場関係者など約60人の参加のもと、市場動向や出荷規格の確認をしました。

はじめに、大塚部会長が「今年度は販売額15億円の計画となっているが、1人1人が丁寧に調整し出荷することで目標は達成できていると思っている。この目揃会を通して更なる品質向上に努めてもらいたい」とあいさつ。その後、山本地域振興局普及課職員から病害虫についての説明があり「害虫の発生が非常に多い年となっている。また、7月に入り、べと病も発生している。病害虫の発生する前に、防除を徹底してもらいたい」と呼び掛けました。